

棚田に吹く風

2009年
10月号
Vol.67
隔月刊

特集 棚田米流通の謎

棚田米ってどこに売ってるの？ どうしたら食べられるの？



今回の表紙

「静岡県賀茂郡松崎町石部棚田」

オーナー・トラスト会員、地区の皆さんによる収穫祭が行われ、稲刈りとハサ掛けに400名余りが汗を流しました。

棚田に吹く風 10月号 目次

4

シリーズ

棚田・里山からのたより

石川県輪島市 白米千枚田

名勝保全と美味しい米づくり

海辺に拓かれた土坡の千枚田

6

連載

榎原の稲作日記

ブック&ムービーレビュー

7

青柳健二の

「世界の棚田から」

田んぼの生き物たち

8

棚田博士は今日も行く

岐阜県高山市

「滝町の棚田」

10

棚田調査プロジェクトレポート

11

棚田ネットワーク

Project & Topics

棚田米流通の謎

棚田米ってどこに売ってるの？
どうしたら食べられるの？

かなりの棚田米が「自家消費」される

実は、保全活動などの際に地元の方にお聞きすると、「ほとんど出荷していない」「自分の家と親戚で食べて終わりだな」という方が結構多いのです。よく知られているように、日本は農家二戸あたりの平均耕作面積が狭く、棚田のある中山間地はとりわけ広い耕作地が持ちにくい状況。日本全体で見ても、農家の約3分の一は自給的農家という統計もあります。棚田米はもともと全体の生産量が少なく、自家消費やいわゆる縁故米になり市場には出回らない、というパターンが見えて来ます。

自家消費分以上の生産量がある場合

もちろん自家消費分以上の生産がある農家や地域もたくさんあり、それらの棚田米の行き先は大まかに「産直などで売る」「直接取引で米穀店などへ」「農協へ出荷」に分類できます。

Case 1

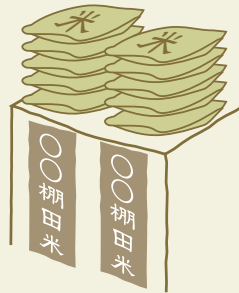
棚田米を
棚田米として
販売する

① 消費者に直接販売する

イベントや道の駅でミニ販売したり、交流で顔見知りになった人の注文を受けて宅配する小規模な方法から、棚田米生産組合などを組織して計画的に販売するパターンまで。大量に売るのはなかなか大変ですが、中間に他の業者などが入らないため値段が自由に決められる、生産者と購入者がお互いに顔が見える等の利点があります。このパターンの変型がオーナー制度。市場には決して流通しない「幻の棚田米」でも、オーナーになれば確実に手に入ります。

② 棚田米に注目する米穀店などの店頭へ

棚田米の価値に注目したり棚田保全の大切さを理解してくれるお米屋さんに、直接売るパターン。メニューに「棚田米」を明示するレストランなどが買ってくれる例もあります。基本的に仕入れ値は市場価格より高く、中にはデパートで高級米として売られているものも。①と比べると一括して大量に買い取ってくれることもあり、ある程度の規模の棚田地域にとってはとても嬉しいルートではないでしょうか。



一般的に「棚田米は平場のお米と比べておいしい」といわれています。棚田ファンなら多少高くても棚田のお米を買うことで棚田を応援したいという気持ちもあります。でも、スーパーやお米屋さんで「棚田米」の袋を見かけることはあまりありません。棚田米の流通の仕組みはどうなっているのでしょうか。

Case 2

棚田米が
棚田米として
販売されない

農協に出荷

①と②では棚田米が棚田米として販売されますが、平地で生産されたお米と混じるのが農協への出荷です。

巨大農協は細かい区分が苦手

農協のライスセンターなどには、稲刈りシーズンになると地域の農家からたくさんのお米が集まってきます。最近の施設・設備は効率化のため大型化されており、大量のお米を受け入れて一度に作業します（予備乾燥機150ト、仕上げ乾燥機10トなど）。サイロのような貯蔵施設（お米が入っている）には1本で300トのお米を貯蔵できるものもあるとか。

農協の区分の基本は「品種（コシヒカリ、あきたこまちなど）」と「（ある程度の広さを持った）生産地域」なので、管内に棚田地域とそうでない地域があったり、一軒の農家が棚田と棚田でない田んぼを両方耕作したりしている場合、最初からそのつもりで計画しないと、受け入れ時に区別するのは不可能です。「杭掛け乾燥の棚田米」と「コンバインで刈り取った平地のお米」が混じるのは、棚田ファンから見れば「なんてもったいない！」ですが、現在の農協のシステムで見ると限りなく不思議ではないのです。

農協



新しい流通の仕組みが必要

自前の販売ルートを持つていない農家は農協に出荷せざるを得ません。数字として正確に把握するのは困難ですが、「うちの地域は7割ぐらい農協に出している」「半分以上は農協に行っていると思う」という声も聞きました。全国の棚田地域すべてに保全グループが組織されているわけではなく、保存会があっても積極的に販売に取り組んでいるのは少数。「棚田米として売れる仕組み」が整っていない現状では、棚田米はまだ一般の消費者にとっては「遠い存在」のようです。

棚田米の価値は「お米のおいしさ」だけではありません。「多少高くても棚田米を食べて保全を応援したい」という消費者が増えるように、新たな棚田米流通の仕組みを少しずつでも育てていきたいものです。

農家規模に見る棚田米出荷内訳例

大規模棚田農家
Cさん
(生産量230俵)



中規模棚田農家
Bさん
(生産量100俵)



①自家消費+縁故米
②直販、イベント販売など

小規模棚田農家
Aさん
(生産量20俵)



③農協出荷
④米穀店など

10年にわたる棚田米販売の実績 成川米穀社長に聞く！

棚田米を扱うきっかけは？ またその理由は？

個人的に里山が好きで棚田の写真を撮ったりしていたのですが、米を販売する立場から消費者に棚田を紹介し、素晴らしい場所で作られたお米を食べてもらいたいと思ったのがきっかけです。棚田米の販売量が増え、結果として生産者が長期的に安定した米作りが出来るようになるれば、棚田保全にも微力ながら貢献できると考えます。

現在扱っている棚田米の種類と年間の量は？

新潟佐渡、十日町松代、松之山、長野松川村、岩手一関山吹です。はつきり棚田米と明記して販売しているのは上記で、合計年間約80トです。

棚田米の仕入れの方法は？

4通りあります。生産者から直接、JA単協(全農)卸会社経由、あと自分の田んぼ(一枚から)笑。成川米穀が行うJAの棚田米区分集荷の事例は、全国で通用しますか？

区分集荷でJAから仕入れているのは現在JA十日町、JA佐渡、JAいわい東(一部)です。JA十日町や佐渡は棚田地区が広大ですので、明確に区分して集荷し保管され分りやすいのですが、同じ生産者のお米でも棚田で作られたもの、平地で作られたものとありますので、地区により明確に棚田を定義できないのが現状ではないでしょうか。現時点では区分集荷は比較的確に棚田を定義しやすい場所に限られると思います。区分集荷には加算金があります。JAによりまちまちですが1000円(1俵60kg)に対して加算されることもあります。30kg袋に「棚田米」のステッカーが貼られますが、高いステッカー代ですね笑。

棚田米が消費者から評価を受け販売が伸びれば、JAとしては十分メリットがありますので、全国に広がる可能性はあると思います。一方、棚田地域のメリットですが、区分集荷の加算金が生産者にわたるかどうかはJAによりまちまちです。生産者へのバックがあり集荷率が高まることになれば、双方にメリットが生じるのですが、結果的に販売進捗が課題になると思います。

棚田米は平場のお米と比較して売れますか？
もちろん米売場で米袋に棚田のシールを貼り、高い価格設定をしたのでは売れるはずがありません。一般の消費者はまだ棚田についてよく知りませんので、平場のお米より高い理由、棚田米を買うメリットを消費者にわかりやすく伝えることが大切です。

棚田米を扱いたい米穀店及び棚田米として売りたい生産者へのアドバイス

きれいな景観の棚田地区のお米を写真で見て美しいと感じても、消費者が実際に食べてみたいと思うかどうかは疑問です。作り手の気持ちや人柄が伝わらず一方通行で、カタログ販売できれいに案内されている商品に似ています。

米穀店と棚田米生産者がコミュニケーションをしっかりととり、対面販売により消費者に上手に情報提供できれば、量販店と自店を差別化する効果的な商材になります。

棚田米の将来的な可能性は？

十分あると思います。棚田は平場にはない物語が豊富にあります。著名な経済学者の言葉に「商品のマーケティング(販売活動)とは製品やサービスに意味を与える仕事である」とあります。棚田米の景観、安全なイメージ、味、それに作り手の人柄、熱意が加われば、お客様に大きな意味を与える商品になると思います。

成川 亮治：成川米穀社長。米食味鑑定士、水田環境鑑定士、棚田ネットワーク法人会員。HP：米・玄米通販の「らいますママ」<http://www.ricemama.com/>

「棚田応援米プロジェクト」を開始しました！

棚田が耕作放棄される大きな原因の一つが、平坦地の水田に比べて2倍の労力が必要とする一方、収穫量はわずか半分と言われるほどの生産性の低さです。また現在、ほとんどの棚田米は、平坦地のお米と区別されることがなく同価格で流通するため、経済効率が低く高齢化が進む棚田地域にとっては、肉体的にも経済的にも維持が難しくなっています。

そこで棚田ネットワークでは、棚田を応援してくれる消費者、米穀店、企業の協力を得ながら、「棚田米」を単なる消費物ではなく「棚田」のシンボルとして、保全につながる付加価値をつけた棚田米流通システムの推進を応援して行くプロジェクトを発足させました。

主な活動は、左のような条件にあった棚田米の販売に対して、棚田ネットワークオリジナルの「棚田応援米マーク」を発行し、一般消費者に保全運動としての棚田米の購買を訴えることです。

棚田応援米マーク発行の条件

- NPO法人棚田ネットワークが認知する棚田地域でつくられた棚田米の商品であること。
- 通常のお米の相場に加え、棚田保全のための維持管理費をふまえた仕入れ価格であること。
- 販売時に棚田の現状の伝達や棚田保全を消費者に積極的に呼びかける販売システムであること。

このマークのある棚田米をお買い上げごとに、売り上げの一部がNPO法人棚田ネットワークの棚田保全活動に寄付されます。※このマークは棚田米の品質を保証する認証マークではありません。

応援します！
棚田の米づくり

棚田応援米
平成21年度

21年度産の新米から
企業・米穀店の数ヶ所で、
棚田応援米マークのついた
お米が発売予定です！
どうぞ注目ください。



2



3



4



1

①オーナーの田植え／②千枚田でのあぜぬり／③オーナーの草刈り／④秋の千枚田



名勝保全と美味しい米づくり 海辺に拓かれた土坡の千枚田

石川県輪島市 白米千枚田

輪島市街地から曾々木海岸に向かう国道249号沿いに、国に指定された名勝棚田「白米千枚田」が広がります。約370年前に原型ができ最多7995枚あつたといわれますが、現在は急勾配の斜面に1004枚の田が海まで続きます。全国の棚田の中でも1枚当たりの面積が最も小さく、日本の原風景といわれる絶景です。

「蓑の下 耕し残る 田一枚」と歌われるように、一枚一枚の田があまりにも狭く、すべてが手作業となるため、担い手は減る一方であります。

所有者は17軒ありますが、現在耕作している農家は4戸であり、高齢化しており後継者不足が心配されています。現在、全体のほぼ半分にあたる484枚が、ボランティアの協力によって維持されています。

耕作助っ人、白米千枚田愛耕会

市観光課より平成17年暮れ、来年から耕

作できない農家のできたのでなんとかならないかと話があり、18年、定年を迎えた同級生4人で「白米千枚田愛耕会」を立ち上げました。

会結成をきっかけに、都合がつく限り時間を合わせ、一緒に千枚田を耕作する田おこしから始め、あぜ塗り、田植えなどの節目ごとに友人、知人に声をかけて、地元「千枚田ファン」を増やしながら耕作を続けています。

19年から始まったオーナー制度は、都会の人々と米作りを通じて交流ができ、そして励まされ元気が出てきます。また、地元の小学生や保育所の子供達にも、ふるさとの宝を自分たちの手で守ろうと声をかけて、田植え・稲刈りには一緒に作業をし、お米一粒の大切さと自然環境を守る大切さを認識してもらい、千枚田の景勝保存に一役かっています。

オーナー制度の取り組み

白米千枚田のオーナー制度は米の収穫が第一目的ではなく、

①千枚田の景観保全には、稲作を継続していく必要があることを理解してもらい、先人の苦労や収穫の喜びを感じてもらい、

②地元の農家とオーナー同士の交流を深める。

ことにあります。

当地の特徴は田が小さいため一枚一枚マイ田んぼを選んでもらい、表札を立て、自分の田は春先の田おこしに始まり稲刈りまで、手塩にかけた稲作りを体験出来、それが皆さんの喜びになっています。

今年で3年目ですが、会員は「マイ田んぼ」と称する耕作田で稲作をするオーナー会員と、それを支援するトラスト会員が



①



②

①稲を運ぶ。千枚田ならではの作業。

②冬の千枚田



千枚田は能登半島の先端、国道249号線沿いの輪島と曾々木の中間あたりに位置し、小さな田が幾何学模様を描いて海岸まで続いています。田の枚数は国指定部分で1004枚あり、春から夏には海に沈む夕日が田に映えて美しく、絶好の撮影ポイントとなります。この千枚田を見下ろす所に「道の駅・千枚田ポケットパーク」があり、レストランでは特産品や民芸品を販売。トイレもあります。

棚田へのアクセス

【自家用車】北陸自動車道 金沢森本ICから15km・15分で白尾IC。能登有料道路78km・65分で能登空港ICへ。県道七尾輪島線を17km・25分で道の駅輪島へ。国道249号線を10km・15分で白米千枚田。

【公共交通】JR金沢駅東口より奥能登特急バスで約2時間、道の駅輪島下車。路線バス・町野線に乗り換えて20分、白米下車。

お問い合わせ

【白米千枚田棚田オーナー制度事務局】

☎0768-23-1146

これからの白米千枚田

らなり、今年はオーナー会員46人、トラスト会員23人が登録、このうち約8割が前年から引き続き加入しています。収穫の秋には、天日干しのコシヒカリ、地元特産のきやらぶを食卓にお届けし、耕作の苦労と充実感を味わってもらっています。

昨年、能登ふるさと博で『千枚田あぜの万燈』を行いました。1004枚の田の畦に3万本のローソクを立て、幾何学模様になり曲がりくねったあぜ道が浮かび上がりました。いさり火が見える日本海から吹く潮風とともに虫の音も聴こえ、奥能登ならではの秋の夜を演出。公募の「あかり灯し隊」のボランティアは全国から集まり、にぎわいました。

先人たちが築き今日まで耕作を続けてこられた農家の努力を見たとき、この日本原風景といわれる棚田を100年後に残したいと思っています。

オーナーによる共同作業、千枚田結婚式、千枚田あぜの万燈などで交流人口を増やして、地域の活性化を図っていきたいと思います。

全国各地からのオーナー、トラスト会員の支援、また地域が一体となって景勝保存に取り組んでいきますので、皆様の支援をお願いいたします。

「白米千枚田愛耕会 堂前助之新」



あぜの万燈

棚田百選

檜原の稲作日記

徳島県上勝町
檜原の棚田村

第四回 猪鹿物語 その2



谷崎 勝祥 71歳

8月25日から作業を始めて、山の中を刈り払い、杭を打ち込み、ネットを張り、アンカー杭で止め、谷を渡り、一日約300メートル。国土調査の出役も同時進行なので、15戸の部落では大変な出役になる。

作業3日目のお昼過ぎには鹿が二頭走り出て、ネットを張ってある方向に走り去るのを皆で見て大声を上げたりしながら、9月12日までに取りあえず、檜原集落をいちおう一周する事ができた。猪や鹿から見れば、檜原の人間達は、毎日ネットを担いで山に入り、杭を打ってはネットを広げて人家や棚田を囲んで、その中に自分達が入って、喜んでいるように見えるのだろうか？

まだ数ヶ所延長したり、出入口を作らなければならないが、稲刈り作業もあるし、十日町のサミットに参加した後にやろうということので、一旦小休止となった。

早生品種の稲は黄金色になったが、早く脱穀した人の話だと「きれいな色に騙されたが収量は少ない」とのこと。

先人によれば「牛蛇が出始めたなら、梅雨が明けるといわれていたが、牛蛇が出始めた7月初めから1ヶ月、「もう立秋が」の8月7日直前の6日、「四国地方で梅雨が明けた模様」との放送があった。稲の本格的生育期間を待てないまま秋を迎えてしまった今年の稲作りとなったようです。

9月20日には、徳島県ウォーキング協会の棚田ウォークが檜原であり、180名が18コース、5キロコースに分かれて、棚田で昼食をとって、それぞれのコースに下って行きました。



上／鹿予防ネット
檜原入口付近
中／鹿ネット 檜原
棚田村入口付近
下／9/20 棚田
ウォーク 180名
の内5キロコースの
メンバーの到着

編集部イチオシ! BOOK & Movie



『のんびる2009年10月号』



¥315(税込)

パルシステム
生活共同組合連合会
2009年9月発行

パルシステムが、地域活動を応援するセカンドリーグの情報誌として発行する「のんびる10月号」に、棚田ネットワークが取材協力しました。のんびるレポーターが茂木町岩ノ作棚田でボランティア活動に参加したレポートと、棚田ネットワークの活動紹介が、2ページにわたって掲載されています。

また特集では『農』の新しい波として、いろいろなNPOの活動を紹介しています。



『コレカラ2009年11月号』



年会費¥3,600(税込)
*年間購読型の会員誌です
株式会社リクルート
2009年9月発行

リクルートが「50代からの暮らし応援マガジン」として発行する雑誌『コレカラ』。11月号の巻頭カラー特集「日本の原風景 美しい棚田のサポーターになる」で、棚田オーナー制度を4ページにわたって紹介しています。棚田ネットワークでは、今回この記事の監修を行いました。棚田の美しい写真もふんだんに使われています。

青柳健二の 世界の棚田から

インドネシア・スラウェシ島

トラジャ族の船形民家「トンコナン」のまわりには緩い傾斜の棚田が広がっていて、女性たちが籾を乾燥させていた。この時期、乾季は水がないので、コメ作りは休んでいる。その代わり1週間続く葬式が多い。

会場では何頭もの水牛が犠牲にされる。毎日ごちそうを食べ、歌い踊る。事情を知らないで訪れる観光客は、この宴を見て結婚式か祭りだと思うほど、雰囲気は湿っぽくなく、むしろ明るい。葬式は、盛大にやればやるほど死者の供養にもなり、また遺族たちの見栄もあり、費用が貯まるまで待つのだ。

最終日、棺おけを担いで行列し、墓に埋葬する。周りを見渡すと、乾いた田んぼだ。こうして死者は、田んぼの中で「ご先祖様」になってゆく。

○青柳健二

1958年山形県河北町生まれ。学生時代、欧州を旅行中に偶然本屋で見た写真集に興味を覚え、大学卒業後写真を独学。アジア各国取材旅行する中で、中国・雲南省で偶然出会った棚田の美しさに衝撃を受け、以来10年以上、日本・アジア・アフリカの棚田を撮影し続けている。著書に『日本の棚田百選』（2002、小学館）、『アジアの棚田 日本の棚田』（2004、平凡社）、『棚田を歩けば』（2007、福音館書店）など。

URLは <http://www.asia-photo.net/>



© Kenji Aoyagi

田んぼの生き物たち

第16回

オオカマキリ



写真：桐原佳介

田んぼや畑のまわりで見られる身近な昆虫、カマキリ。実は本州だけでもカマキリの仲間が7種類います。我が家の庭にはそのうちオオカマキリ、カマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、ヒメカマキリの5種が見られます。だいたい9月初旬に成虫になったカマキリが出現し、10月が活動の最盛期、遅いときは12月中旬を過ぎても庭で過ごしていることもあります。

写真のオオカマキリはメスで、彼女は産卵を終えた後らしく、お腹がぺったんこで、ふらふらしながら林道を横断していました。しかし、私たち夫婦に気づいたとたんに、果敢にもファイティングポーズをとったのだ。

です。彼女は必死だったのでしょうか、私たちが大喜び。写真を撮り何枚も撮らせてもらいました。その後彼女は、またとほととと林縁に向かって歩いて行きました。時々振り返りながら去って行く彼女の仕草は、あまりにも人間くさく見えました。

（自然観察指導員 桐原真希）



棚田博士 は 今日も行く！

中島峰広の 全国棚田行脚

白山を望む天空の棚田

岐阜県高山市滝町



飛弾地方特有の貯蔵庫「板蔵」

に到着した。(注1)

高山市は岐阜県の北部、富山湾に注ぐ神通川^{じんづうがわ}の支流宮川が市街地を貫流する飛弾地方の中心。四季を通じ多くの外国人を含む観光客で賑わっている。滝町は市街地の東10^キ、乗鞍岳^{のりくらだけ}に連なる標高700^{メートル}の山地河谷に位置する集落である。

濃飛バスで滝町へ

2008年11月、岐阜県農地計画課が主催する棚田保全組織座談会に出席するため、滝町を訪ねた。公共の交通機関を利用する場合、滝町へ向かうバスは早朝と夕方の2便のみで、日祝日は運休するという不便さ。高山に前泊、駅前のバスセンター6時50分発の濃飛バスに乗る。バスは、薄明のなか私1人を乗せて発車、線路沿いに北へ、最初の信号を右折して国道158号に

入り東へ向かう。シャッターの下りた商店街を横に見ながら、乗客のいない停留所を通過して行く。市街地を出て、松之町東の三叉路を右折、国道158号から木曾福島へ向かう361号へ。さらに塩屋町入口の三叉路を左折して市道へ入り、滝川と生井川が合流する落合橋を渡り、もう一度左折して滝川沿いに1^キほど遡れば滝町、その中央にはレトロな凸凹館と新しい公民館が並んで建っている。

バスはそのまま東へ、岩滝まで直行して終点となり、運賃の表示板も切り替わって、始発からの料金が450円から一挙に1900円に跳ね上がった。私が怪訝な顔を見ると、無言の運転手が気忙しく直そうとすることができず、そのままの料金表で再び走り始めた。今度は停留所ごとにぼつりぼつりと高校生が乗ってくるようになる。やがて反転して市街地へ向かい山側の道を通り7時半近くに滝町の停留所

停留所には滝町棚田保存会の会長・中屋栄一郎さんが待っていた。早速集落を横断して保存会が管理する棚田へ向かう。途中の集落内では、各戸ごとに母屋から独立して建てられている飛弾地方特有の貯蔵庫「板蔵」が目につく。「板蔵」は2間×3間半ほどの大きさ、瓦葺き板壁の特徴ある建物。米や客用の布団、冠婚葬祭に使用する什器類などが納められている。中屋家の「板蔵」は一部の屋根が二重になり、ただの貯蔵庫とは思えない雰囲気をもっている。板壁は厚さ2^{センチメートル}ほどの板が内と外、縦横に二重に張ってあるが、空気を通すため米の貯蔵に適しているという。しかし、土蔵のように火事に強くないため、母屋から離して建てられているそうだ。

棚田は、滝川に沿い東西に横たわる集落

の東、標高760〜830^{メートル}の南向斜面に拓かれている。野菜団地が造成された時に開発された農免道路を横断する火男橋^{ひよと}を渡り、坂を上って行くと棚田が現われる。案内板の説明によれば、滝町根方地区^{こんぽう}の面積は7^{ヘクタール}2^{アール}、80枚となっている。傾斜4分の1、1枚の大きさは5〜10^{アール}、法面は土坡、その高さが平均5〜6^{メートル}、最大20^{メートル}もある荒削りで骨太な感じのする棚田である。その形状から、近年になって重機により造成されたものであると見当をつける。中屋さんは記憶してないそうだが、地元の高老によれば1965年頃に十数戸の農家が開

■ なかしま みねひろ 中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

田組合をつくり、木下用水を開削して桑畑を水田にかえたといわれている。

滝町棚田のシンボル、天空の棚田

集落寄りの上り口付近、農道右側には2〜3㍏ほどの比較的小さな棚田が小高い丘との間に6段ほど行儀よく並んでいる。左の山側は高さが10㍏近くの法面、葛折りになった坂道を20㍏ほど上ると、法面で隠れていた十数枚の棚田が見えるようになる。法面の大きさが目立つ4段の棚田が横たわり、最上段は広さが10㍏以上はある。(注2) これらの棚田をこえた下方には滝町集落の家並みが見え、目線の先には晴れていれば白山が遠望できるそうだ。

さらに坂道を上ると、バラックのバツタリ小屋と休憩小屋がたっていた。今年建てられた休憩小屋は1.5間×3間の広さ、壁のトタンは山に捨ててあったものだろう

だ。土間の中央には地炉、壁側に長いベンチとテーブルが置いてあった。これらの小屋に接し道路際に6基の「二ウ」が並んでいた。(注3)

小屋を出て坂を上りきったところにあるのが、滝町棚田のシンボルともいえる天空の棚田である。滝町側から見ると4段、根方側から見ると6段の棚田が天に向かって積み上がり、最上段は円墳のように見える。天空の棚田とはよく名付けたものだ。最上段の巨大な法面は10㍏をこえる高さがある。板の橋を渡り最上段に上ってみると、さらに小さな段差で3段にわかれ、最も高い「雨の田」の下にある「雫の田」に用水枥があった。下から見上げると天空の棚田に水はどうしてもたらされるのか不思議に思われる。その謎を中屋さんが明かしてくれた。用水枥のなかにあるバルブを開けると水が出てきた。その水源は1400㍏



上／根方の棚田
中／休憩小屋
下／中屋栄一郎さん



ほど上流の滝川から引水される木下用水。山側斜面に用水路があり、用水路からは埋設された黒ホースが浅い谷をこえて用水枥に達しており、サイフォンの原理によって噴き上がるという理屈である。

天空の棚田から東を見ると、根方の集落まで棚田が続いていた。5段から6段の棚田が3重になり、それぞれがくの字を描きゆつたりと覆そべっている感じ。1枚が6〜7㍏の広さがあり、手前の2段目の棚田は法面の高さが10㍏をこえている。これらの印象から荒削りで骨太な棚田という感じがするのであろう。

棚田を荒らしては申し訳ない

休憩小屋で焚火に当たりながら中屋さんから話を聞いた。中屋さんは60歳、81歳の母親、60歳の妻、農業に従事する長男夫婦(36歳と38歳)と孫2人、スーパーに勤める26歳の次男が同居する大家族世帯。中学卒業後、恵那市にあった緑化促進青年隊に入り、2年間農林業の研修を受けた。恵那から帰って4年間市内の製材所で働き、車で通勤する途中のバス停で待つ農協勤務の女性を見初め奥さんにしたそうだ。

製材所を退職してからは農業一筋、家の周りにある水田40㍏を耕作するほか、集落の北、標高850㍏にあるマツ・コナラの林野を開墾、180㍏の畑地の造成に取り組んだ。これは途中国営事業に組み込まれ、畑地灌漑施設を備えた野菜団地となり、そ

こで高冷地野菜を生産するようになった。(注4)

生活が一変したのは4年前、土地を含め野菜団地の経営権をすべて長男夫婦に委譲してから。それ以後、滝町保存会が管理する棚田の保全に専念するようになったという。保存会は、中山間地域等直接支払制度の受け入れを契機に2001年に結成され、現在面積5㍏、50枚の棚田を管理している。会のメンバーは地権者の7名、このうち実際に耕作に従事するのは2名、他の5名は土地を保存会に全面委託し、10㍏当たり1万円の地代を受け取っている。(注5)

中屋さんは会長として会の運営に当たるほか、サポーター(注6)とともに自らも作業に励んでいる。年3回行う巨大な法面の草刈りが主で、畑作物の播種や収穫の作業も行つ。このほか、ボランティアとして高山市職員が草刈り、高山市商工会とJAの職員が田植え・稲刈りにやってくるそうだ。

生計は宮川朝市の稼ぎに頼っているが、年商1200万円と聞いてびっくりした。朝市は市街地の宮川沿いの道路で夏は5時、冬は6時から12時までひらかれる。中屋さんは使用料3・4万円を払い、間口1間半の場所を2口借りて、野菜類と薬細工の「サルボボ」などの民芸品を売っている。野菜類は中屋さん、民芸品は奥さんと母親がつくり、店番は奥さん、年間3000日は出店するという。中屋さんは、早朝車で奥さんを朝市まで送り、昼に連れ帰るのが日

今回の棚田へは...

岐阜県高山市 滝町の棚田



滝町の棚田へのアクセス

【自家用車】 JR高山駅より20分。国道158号線より、国道361号線に入り、「飛騨高山スキー場」「国立乗鞍青年の家」への案内看板を目印に県道462号線へ左折。岩井トンネルを目指す。

【公共交通】 JR高山駅よりタクシーで滝町まで20分。
※バス利用の際は、高山濃飛バスセンターより岩滝、青少年交流の家線、滝町で下車、徒歩5分。ただし朝夕2本（土日祝運休）



薬細工「サルボボ」などの民芸品を売る中屋さんの奥さん

課になっている。
このような生活の基盤があるためか、親父たちが苦労して拓いた棚田を荒らしては申訳ないという言葉にも力みがみられない。そのゆったりとしたくらし振りには、余生を楽しんでいる私の目から見て羨ましいほどの余裕が感じられた。

- *注1 料金表と運転手の顔を見て問い掛けると、料金は後日でよいから早く下りてくれと急かされた。どうしてよいかわからない中途半端な気分です。下車したときから運転手の様子はおかしくなりました。つまり、バスは登校する高校生を迎えに行く便であり、早朝郊外へ向かって乗車する私のような客はほとんどなく、予想外だったのである。そのために料金設定ができず、急かされたのは高校の始業時刻に遅れるためだろうと解釈、納得することにした。
- *注2 その巨大な法面の一部がシートで覆われていたが、事業により崩壊箇所の修復が行われているとのこと。
- *注3 「二ノ」は中心の杭に4.5本の棒を斜めに立てからませ土台にし、その上に藁束を積上げた藁塚。奈良県明日香村の「ススキ」によく似ている。
- *注4 畑地は180坪のうち80坪にハウス32棟をたて、これらを利用して4月から10月までの7か月に4作のホウレンソウ栽培に労力を集約。妻と息子夫婦の4人でパートを雇い、脇目も振らず働いてきたと仰しや。
- *注5 50枚の棚田は、そのうち20枚は水田、残りは畑として利用され、水田では梗米・黒米・赤米、畑ではイノシシに襲われることのないカブラ・ギョウジャニンニク・トウガラシ・ネギ・ニンジンなどが栽培されている。もう一つの顔が稲穂。毎年冬5〜6頭、夏10頭前後のイノシシを仕留める腕前の持主である。
- *注6 サポーターは営林署を退職した5さん（62歳）、大阪から1ターンのインテリアデザイナーのHさん（45歳）、飲食店で働くFさん（62歳）の3人。3人の賃金は時給1000円、それぞれ15〜50万円が支払われている。これを賄う資金は中山間地域等直接支払100万円のうちの50万円、県と高山市からの補助金50万円、宮川朝市で販売する赤米、黒米、カブラなどの野菜類の売り上げなどが充てられている。

調査プロジェクトレポート



■調査プロジェクトってなに？

2008年春に三井物産環境基金の助成を受けてスタートした、3年がかりのプロジェクト。全国の棚田保全に関わるグループを訪問し、聞き取りなどを行います。それぞれの棚田地域には、それぞれの歴史や特徴、課題があり、それを記録・整理し、今後の棚田保全や、棚田地域どうしのネットワークづくり、農山村と都市の交流の構築などへ活用できるようにするのが目的です。毎号、このコーナーで調査チームのレポートをお届けしていきます！

8月〜9月 4団体を訪問

2年目を迎えた棚田保全団体の調査活動は8月から開始し、9月までに各地の4団体を訪問しました。今月号ではこのなかから熊本県・山都町での調査活動の様子をレポートします。

山都町は熊本県のもつとも東に位置し、お隣は宮崎県です。山麓のいたるところが棚田、その棚田に囲まれた山あいの都といった感じです。訪れたのは9月中旬、一つひとつの棚田に名称があるわけではありませんが山々の斜面は黄金色の棚田で輝き、その景観はみごとなものでした。調査スタッフは中島と上久保目指す保全団体は菅地域振興会です。

応対してくれたのは振興会の会長を務める渡辺さんと菅区長会長の舩田さん。菅地区は4つの集落約80戸ほどの農家です。深い峡谷の緑川によって街の中心部と2分されており、「ここに「大橋」を」という願いをもとに結成されたのが菅地域振興会で、30年の歴史があるというからその組織力には驚きです。10年前に完成した悲願の大橋「鮎の瀬大橋」に隣接する囲集落の公民館でお会いしました。

振興会は各部ごとの役割分担が明確で、活発な活動の基がここにあると感

Research Project Report 2009



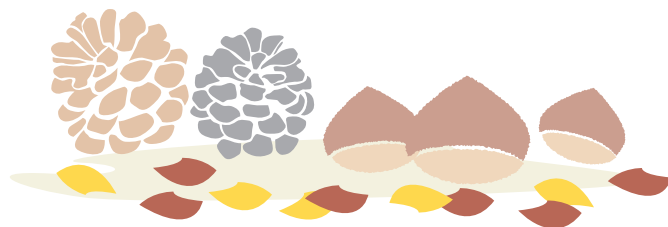
上／渡辺さんと舩田さんへの聞き取り風景
左／地元の棚田米「ひのひかり」



じました。特に婦人部の果たす役割に注目しました。オーナー制も活発で、ほとんど宣伝しなくても口コミで応募があるといえます。鮎の瀬大橋のたもとにある観光施設「鮎の瀬交流館」では、この振興会傘下の婦人たちが組織する山里会のメンバーが交代で店を切り盛りしています。ここでは観光客相手に棚田米はもちろん、野菜、お茶などの特産品の販売や食堂を営んでおり、お母さんたちの生き生きとした働き場所となっています。地域振興会は菅の農家にとって日常生活の中心になっているようです。

(上久保 郁夫)

棚田ネットワーク Project & Topics



Project 岐阜県恵那市 棚田ビオトープ プロジェクト

日本陸水学会の観察会



日本陸水学会東海支部のサマースクール

日本陸水学会東海支部のサマースクールが8月29日(土)～30日(日)に坂折棚田で開催され、協力をいたしました。参加者は29名。研究者や実務者、学生はもちろんのこと、その家族も参加できるため小学生、幼児まで年齢層が非常に幅広い!

初日午後、坂折棚田を歩きながら、美しい石積みの棚田はもちろん、棚田ビオトープや水車小屋などを見学。その後、笠置中日山荘にて私が棚田と棚田ビオトープについて、岐阜県世界淡水魚園水族館アクアトぎふの

池谷幸樹さんが棚田の生き物、特に魚類について話題提供をしました。そして、野外でバーベキュー。子供は大喜びでした。

次の日、現地生物捕獲実習として棚田ビオトープやすぐそばを流れる坂折川で生き物を捕獲。溪流沿いの棚田ビオトープで初めてニホンイモリの幼体を発見しました。なごみの家で昼食を食べ解散。学会の企画で家族で来て楽しむことができるなんてステキ、棚田ネットの企画の参考になりました。

(相田 明)

Project 栃木県茂木町 岩ノ作棚田 稲刈りイベント



参加者全員で記念撮影

10月3日(土)、5月の田植え体験に引き続き、岩ノ作棚田では稲刈りイベントが開催されました。70%の降水確率も覆し、時折青空がのぞく棚田日和、30名の参加者が3枚のモチ米の田んぼに臨みました。稲刈りは手刈りに加え、1条刈りのバインダーを地元の方の指導により、子供も女性もわくわく体験。3枚の田んぼをあっという間に刈り取った後は、竹でハサを組み、稲をかけて干しました。子供達にとっては、バインダーは遊園地の乗り物、ハサかけは絵

本に出てくるおうち作りのように感じたりもかもしれません。

作業が終わったらお楽しみの昼食! 棚田の新米のおむすびに地元の食材と手作り味噌のうどん、魚の煮付け、そしてデザートにスイカという、今回もみんな大満足のおいしいご馳走。食後の里山散策中、あちこちに落ちている山栗のお宝を女性陣が無心に拾う姿に、里山の収穫の秋をしみじみと感じたバスツアーとなりました。

(高桑 智雄)

Project 大阪市中央区 大阪プロジェクト

調査プロジェクト@関西



8月12～13日、関西地区の棚田調査に行ってきました。全国10カ所を訪問する2009年度調査プロジェクトの一環で、関西は兵庫県多可町^{いさりがみ}岩座神、大阪府能勢町^{ながたに}長谷の2カ所です。

今回のスタッフは大阪プロジェクトメンバーで棚田むすびの会々長の扇田さんと私の2名、そして棚田ネットワークの中島代表。中島代表に地元保存団体と繋げていただき、調査の実施要領を現場で学ぶのも目的の一つです。

当日実際に中島代表と行動を共にして、準備資料の充実ぶり、事前の地元や自治体へのこまめなコンタクト、そして今までの活動実績に裏付けられた保全団体との信頼関係など非常に学ぶ点が多く、よい経験をさせていただきました。

まだまだ未熟な大阪メンバーですが、少しずつ実績を積んで、棚田ネットワークの支部機能が果たせるようになりたいと考えています。

(中崎 義志晴)

Topics 新潟県十日町市 棚田サミットの準備が着々と...



棚田見学で訪れる予定の星峠の棚田

10月16～17日に開催される棚田サミットに向けて、地元の準備も佳境に入っています。今年は前夜祭にあたる「宵の集い」が計画されています。準備にあたっているのは、大地の芸術祭でボランティア活動をしている松代の“案山子隊”のメンバー(役所などを退職したOBを中心に構成)。遠くから来てくださる方に感謝の意を含め、少しでも交流を深めたいと、張り切っています。

また、ふるさと会館(ほくほく線まつだい

駅に併設)では写真展が開かれています。地元の写真愛好家と棚田学会写真部『じよんのび会』に提供していただいた71点の棚田写真が、「サミット近し」の雰囲気盛り上げます。本会場となる松代体育館では、より本格的な写真展が予定されています。

棚田見学コースの休憩所で提供するオニギリや飲み物についての相談なども進み、皆さんのお越しをお待ちしています!

(旧松代町出身・木戸 幸子)

棚田の新米ギフト

新嘗祭の頃に棚田の新米を贈りませんか？

11月23日は新嘗祭(にいなめさい)。

八百万の神々に新穀を奉納し、

それを一緒に戴くことで今年の収穫に感謝する日です。

その大切な日に、棚田の新米を大切なあの方に。



棚田の新米ギフトセット

各地の棚田の新米を可愛い3合パックにして詰め合わせました。ラベルの棚田の写真をしながらの食べ比べを楽しんでください。新嘗祭にちなんだメッセージカードと棚田絵はがき付き。また売上の15%が棚田ネットワークと棚田保全団体に寄付されます。

棚田の新米ギフト6個セット

3,500円(税込/送料別)

おおよそ
滋賀県大津市 仰木の棚田
奈良県生駒市 西畑の棚田
三重県伊賀市柘植 忍びの棚田 など



忍びの棚田



西畑の棚田



仰木の棚田

上田米穀店ネットショップ

大阪市中央区南船場1-8-13-1103

お問い合わせ naka@komedouraku.com TEL/FAX.06-6268-8077

<http://uedabeikoku.shop-pro.jp/> 上田米穀店 で 検索



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか？一緒に考えませんか？ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員になると!

会報紙「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

〇個人会員

維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員も募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまも募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

〇法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。是非ともご入会ください。お待ちしております。(詳細はお問い合わせください)

いよいよ新米の季節ですね！
今年は夏の日照が少なくお米の出来が心配されましたが、みなさんもう新米は召し上がりましたか？今年棚田ネットワークでは、栃木県茂木町の岩ノ作棚田を体験田として1000㎡のお米を作りました。このお米は、今年から始まった維持会員の新年典用として50%使う予定で、残りを会員の皆様にお届けしようと考えていたのですが、稲刈り参加者の当日の注文ですでに47%売れてしまいました。無肥料で除草剤1回だけのコシヒカリ、湧き水とたくさんの生き物が育む棚田の新米は、稲刈り当日の昼食でもおむすびとしてふるまわれ、とてもおいしかったです！来年はもう少し多目に作って皆さんの食卓にも届けられたらと思います。

棚田の新米は、今年の棚田フェスでも全国12ヶ所を3合パックで売り出す予定です。今回の特集でもおかわりの通り、まだまだ一般流通が難しい「幻の棚田米」を、ぜひ棚田フェスに買いに来てください！

編集部から

ウェブサイトも見てください!

棚田の基礎知識や、棚田ネットワークの活動内容、イベント情報、ブログなど、盛りだくさんの情報を発信しています！是非のぞいてみてください！

www.tanada.or.jp



ブログも
随時
更新中!



2009年10月号 Vol.67

発行



特定非営利活動法人
棚田ネットワーク

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号

Tel / Fax 03-5386-4001

e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp